

APFED3/03/Doc.6

2003年1月22日

アジア太平洋環境開発フォーラム第3回実質会合

2003年1月25 - 26日

中華人民共和国、桂林

## APFED 最終報告書に関する選択肢と考え方

### はじめに

APFED は、アジア太平洋地域における衡平性と持続可能性を高める新しく長期的な開発の枠組みを作り上げるために設立された。2001年10月に行われた組織会合において APFED メンバーは当面の目的として持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)への提言を作成することを決定した。APFED は2002年に2回の会合を開き WSSD に向けた APFED の提言をまとめた。APFED メンバーはアジア太平洋地域が直面する環境と開発の問題を検討した後、まず注目すべき5つの重要な分野と2つの包括的な課題を確認し提言を提出した。APFED が提言に盛り込んだ約束にはまた、WSSD の結果を具体的な行動へと変える上で APFED メンバーが積極的なパートナーとなる、という約束も盛り込まれた。WSSD の第4回準備会合および WSSD においてこの文書が成功裡に配布され、2004年末までに最終報告書をまとめることが APFED の現在行うべき作業のうちの1つとなった。

APFED 第3回会合の目的の一つは、最終報告書の内容と構成がどのようになるかについて APFED メンバーが決定を下すことにある。最終報告書は APFED の独自性を適切に反映するものでなければならない。このことは最終報告書の目的、すなわち APFED が最終報告書で世界に向け何を提示しようとしているかについて議論する際に考慮すべきことである。この議論を行う際には、APFED の特徴である以下の優越性と制約に注意しなければならない。

#### 優越性：

APFED は、

- ・有識者の集団であり、いかなる国・機関にも縛られることはないこと。
- ・主にアジア太平洋地域からの19カ国と7つの国際機関を代表する国際的な組織であること。

#### 制約：

- ・公式会合は年1~2回しか開けないこと。
- ・2004年末までに最終的な報告書を完成しなければならないこと。

去る 10 月、事務局は APFED メンバーに対し、最終報告書についての意見とアイデアを述べるよう要請し、その結果、APFED3/03/Doc.7 にまとめられた貴重なコメントと提案を受け取った。このコメントと以上の要素をふまえ、議論進行のために最終報告書の内容、構成、起草プロセスの選択肢を事務局が準備した。議論の焦点は APFED の特性を最大限活用する選択肢を選ぶことに当てられる。

## ． 選択肢

**内容：** APFED の使命、すなわち地域における衡平性と持続可能性を高めるような持続可能な開発の枠組みを構築するということを考慮に入れた場合、最終報告書ではどの分野を扱うべきか？

オプション A： 全体的で統合された方法で問題を扱う一つの課題を選択

例：持続可能な消費・生産パターン；  
様々な課題を統合したもの

オプション B： 最も重要ないくつかの分野を選択

例：再生可能なエネルギーや淡水資源といった 3~4 の特別な分野を選ぶ；ガバナンスや能力開発といった横断的な分野に焦点を当てる

オプション C： APFED の提言に盛り込まれた 7 つの分野全てを包括的にとりあげる(または別の分野を追加して)

つまり、部門的な切り口(淡水資源、再生可能エネルギー、貿易、資金、都市化)および横断的な問題(良きガバナンスおよび能力開発)

例：持続可能な消費・生産パターン、ICT (情報通信技術)、国際テロといった切り口を追加

*選択肢の詳細については付録 p.1 参照*

**構成：** 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 環境開発大臣会合 (MCED) といった機会に世界に向けて効果的に発信するために、最終報告書はどのように構成するべきか？

オプション : ごく短い報告書(約 10 ページ) + 付属書

オプション : 短い報告書(約 50~100 ページ) + 付属書 [+ 議長サマリー]

オプション : 長文の報告書(約 100~300 ページ) + 議長サマリー

*選択肢の詳細については付録 p.2 参照*

**起草プロセス\*** : 最終報告書の起草について最も効率的で効果的な方法は何か？

オプション 1： 3 人から 5 人の APFED メンバーを指名するかまたは小人数のコンサルタント / エディターを雇い、最終報告書の作成において積極的な役割を果たすようにする。

オプション 2 : 章/節毎の主筆として 1 名の APFED メンバーを任命し、(章/節毎に)APFED メンバー/他の専門家によるグループを起草委員会の委員に任命する。

APFED の関連会合(マルチステークホルダーおよび専門家会合)を異なった素案を評価するための会合として利用する。

オプション 3 : 事務局が唯一責任を持って最終報告書の作成を行う。

選択肢の詳細については付録 p.3 参照

\*どのオプションが選択されたとしても、全ての APFED メンバーは実質会合を通じ、最終報告書の起草および編集に貢献することになる。詳細は付録 p.4 の最終報告書の起草スケジュール参照。

### **・他の考慮すべき問題：**

#### 最終報告書に含めるべき要素：

- ・準地域/国家における優先事項に対処するため、それぞれの課題についての具体的な提案/行動計画
- ・使用した方法論とそれについての検討
- ・「すべきこと」、「してはならないこと」およびそれらの分析 また最終報告書と BPP とを連携させるか？(下記参照)

#### 最終報告書と APFED コミットメントとの関係：

- ・BPP(優良事例の収集、分析)との連携はどのようにすべきか？
- ・NetRes(研究者と研究機関のネットワーク)を効果的に構築するためには最終報告書の作成過程において、全てのステークホルダーの参加と関わり合いをどのようにすべきか？
- ・コミットメントの成果をどのように最終報告書に盛り込むか？

APFED コミットメントについては文書 8 (APFED3/03/Doc.8) 参照

#### 最終報告書の提示

- ・ブノンペン地域綱領をはじめとする地域における他のイニシアティブとの関係
- ・MCEDや他の会議における最終報告書の役割

付録

1. 内容:

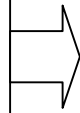
選択肢:

論点:

**オプションA:**

包括的かつ統合された方法で持続可能な開発を取り扱う分野に焦点を当てる: 例えば

1. 持続可能な消費および生産パターン
2. トピックを統合する、または分野横断的な問題に取り組む



1. どの問題を選択するか?
2. どのトピックを統合して扱うべきか?

**オプションB:**

APFEDが最も重要な切り口として強調する3～4の特別な分野を選択する: 例えば

1. 淡水資源、再生可能エネルギー
2. 良きガバナンスおよび能力開発といった横断的な問題に焦点を当てる(またこの2つの問題のもとでの全てのいくつかの分野別の課題を含める)



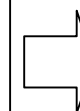
1. APFEDはアジア太平洋地域における中心のかつ根本的に重要な問題に集中し順位付けをするべきか?
2. もしそうであれば有識者の集団としてのAPFEDはどの問題を地域におけるより優先度の高い問題として一般市民に伝えるべきか?

**オプションC:**

提言に盛り込まれた7つの分野全て(更にいくつかの分野を追加する可能性もある)について章/節を設ける: 例えば

各分野および横断的な分野について章を分ける: 淡水資源、再生可能エネルギー、貿易、資金、都市化、良きガバナンス、能力開発

一つの章で部門別の問題(淡水資源、再生可能エネルギー、都市化); 別の章で実施手段(貿易、資金、良きガバナンス、能力開発); 最終章で(または結びで)その他の優先分野(プノンペン地域綱領に含まれるもの)



1. 各トピックの範囲は拡大されるべきか?(例)淡水資源 水資源
2. 追加のトピックを含めるべきか?(または「結び」でのみ議論するべきか?)  
(例)持続可能な消費・生産パターン; 国際テロリズムとその持続可能な開発に対する影響; 情報通信技術(ICT); プノンペン地域綱領に盛り込まれたその他の問題、例えば貧困、食糧安全保障、人材開発、自然災害、気候変動、技術移転

2. 構成 :

選択肢 :

オプション

ごく短い報告書  
(約10ページ)

+  
+

付録  
(詳細と補助データ付き)

考えられる内容の組み合わせ

オプションA :  
全体的および統合的な方法で持続可能な開発を扱う分野に焦点を当てる

オプション

議長サマリー

+  
+

短い報告書  
(約50~100ページ)

+  
+

付録

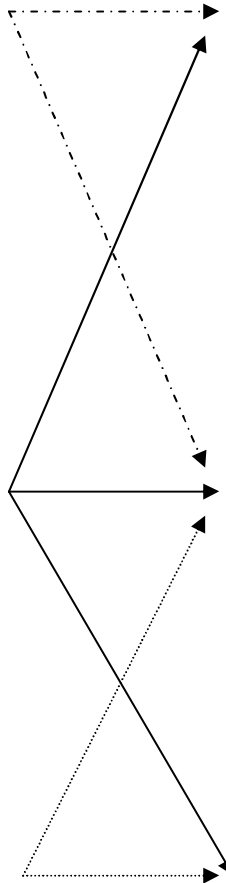
オプションB :  
最重要であるとして  
APFEDが強調する3~4の特別な分野を選ぶ

オプション

議長サマリー

+  
+

長文の報告書  
(約100~300ページ)



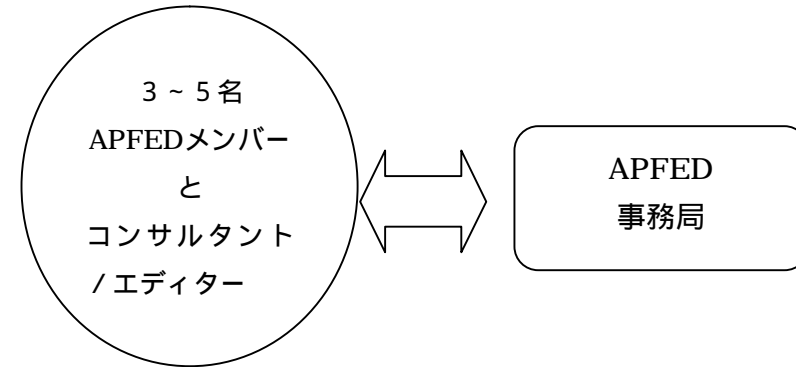
オプションC :  
7つの分野全て(更に分野が追加される可能性あり)を扱う章/節を盛り込む

3. 起草の過程：

オプション1

3人から5人のAPFEDメンバーを指名するかまたは小人数のコンサルタント/エディターを雇い、最終報告書の作成において積極的な役割を果たすようにする。

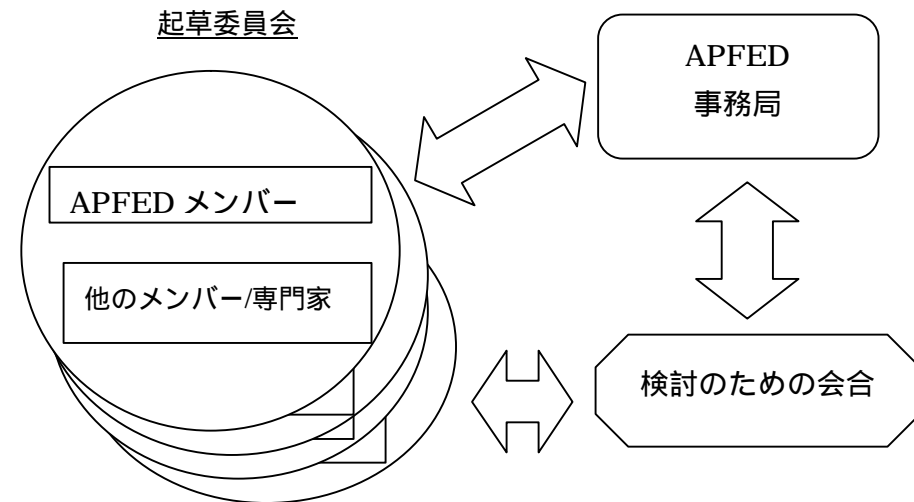
この集団は事務局と直接協力して報告書をまとめることになる。



オプション2

章/節毎の主筆として一名のAPFEDメンバーを任命し、(章/節ごとに)APFEDメンバー/その他の専門家を起草委員会の委員に任命する。APFEDの関連会合(例：マルチステークホルダー会合、専門家会合)を異なる草案を評価するための会合として利用する。

事務局は主筆や委員会と密接に協力して作業する。



オプション3

事務局が唯一責任を持って最終報告書案を作成する。



**1.起草スケジュール(案)：**

*起草過程の選択肢2に基づく案*

2003年1月 **APFED 第3回会合**：最終報告書についての議論。目次(目的、トピック)、構成および起草プロセス。  
*APFED メンバーを中心グループ構成員/主筆/起草委員会委員に選出*

2月～7月 起草プロセス開始 *起草委員会立ち上げ*  
*ゼロ草稿準備 7月に起草委員会会合を開催*

夏 **APFED 第4回会合**：進捗状況報告およびゼロ草稿についての議論

9月～12月 APFED 第4回会合での議論に基づき第一草稿作成  
*12月に起草委員会会合を開催*

2004年1月～2月 第一草稿レビュー(APFED メンバー、インターネット経由のパブリックコメントなど)  
*マルチステークホルダー会合および専門家会合開催(検討のための会合)*

3月～4月 受理した様々な意見に基づき第二草稿を準備  
*4月に起草委員会会合を開催*

春～初夏 **APFED 第5回会合**：第二草稿についての議論  
*マルチステークホルダー会合及び専門家会合開催(検討のための会合)*

6月～11月 最終案作成 *11月に起草委員会会合を開催*

2004年末 **APFED 第6回会合**：最終草稿についての議論と最終報告書の採択